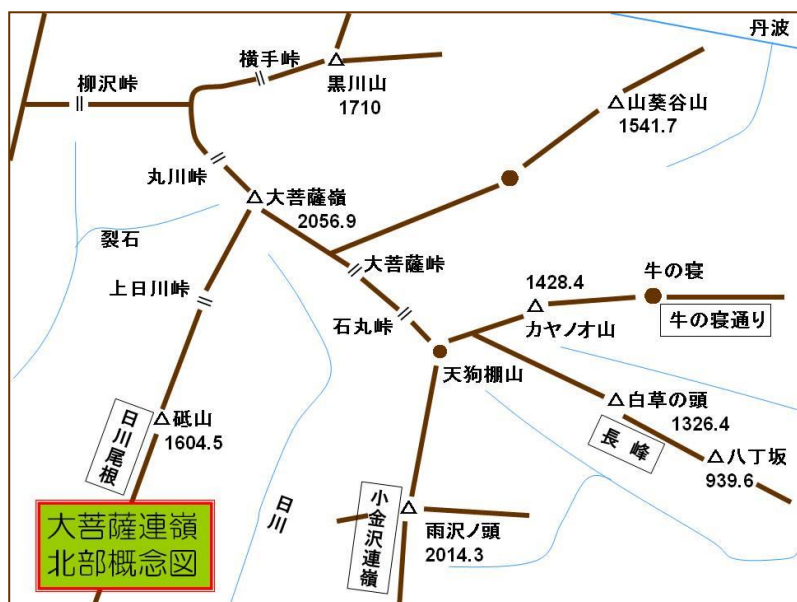


## 踏み跡 < My mountains >

大菩薩	旧青梅街道(丹波)から大菩薩嶺へ	No.012
-----	------------------	--------



私のほかに17名という大家族の旅。関根から、「中学校のクラス会として大菩薩のハイキングをやりたいが、名目上リーダーが必要なので付き合ってくれ」との要請があり、引き受けた。15名のクラス会メンバーに、伊東・小林が加わり17名となった。

昭和37年5月20日  
 東京駅発0時00分の大菩薩号で深夜東京駅を出発。快晴・満月で夜間歩行には最適。  
 氷川着2時16分、丹波と小菅へ行くバスが順繰りに走っていく深夜の氷川駅。

丹波行バスは満員(110円)。丹波3時30分着。3時45分に出発、懐中電灯の明りを頼りに青梅街道を西へ。17名の部隊は時が経つにつれて縦に長くなっていき、段々に全体の状況が掴みにくなる。

丹波は海拔約630m、これから1400mを登ることになる。

牛金橋4時50分、少し空に明るさが感じられるようになる頃、橋の上で朝食。

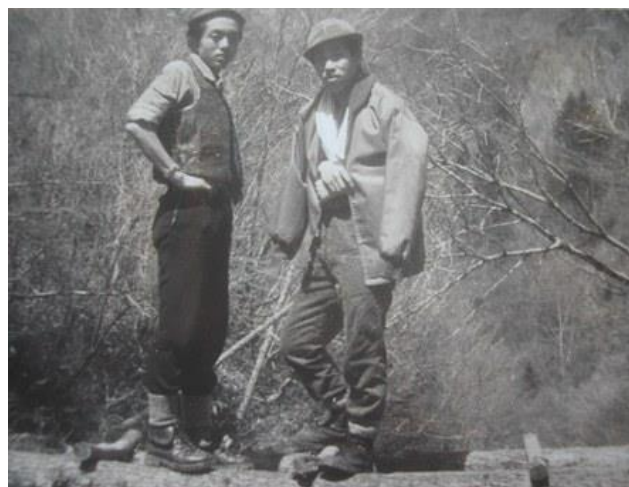
三条新橋(海拔754m)5時40分、ここから街道を離れて泉水谷に入るのだが、先頭集団が曲がらずに行ってしまう、追いかけて捕まえて戻るといった作業が発生。約一時間のロスタイムが発生し、6時30分発。

泉水谷に入ると谷は狭くなり、道も細くなり、山へ来たなという感じになる。左手にいくつもの滝を落としながら流れる谷と、柔らかな若葉が輝く林。

不動の滝7時10分～7時20分、火照った体を冷ましながらか早朝の林に響く水の音を楽しむひととき。泉水小屋から牛首谷に入り沢をつめて行く。

◆下写真:泉水谷でのひとこま(右:伊東 左:小林)

泉水谷に入ってから約4時間、10時50分に一面の草原の丸川峠(1670m)に到着。谷間から開けた尾根上に出ただけでも爽快な気分になれるのに、初夏の陽差しをいっぱい浴びた草原は最高の休み場所。12時まで昼食と大休止。



丸川峠から北面を巻きながら大菩薩嶺に向かう。正面の木立の間に笠取山・飛龍山・雲取山と続く奥秩父の主稜線がでんと広がって見える。

大菩薩嶺(2056.9m)、13時に到着。我が初めての2000m峰。針葉樹林の中の山頂は倒木も多く、丸川峠の草原と比べると殺風景で見劣りがする。

13時15分まで小休止。

大菩薩峠(1900m)14時15分、北には笠取山、飛龍山、雲取山、と連なる奥秩父の稜線、南には富士山と贅沢な眺めを楽しむ。25分の中休止で残ったインスタントラーメンを食べて最後のエネルギー補給。

14時40分大菩薩峠を出発。終着駅の裂石には16時20分に到着。裂石への下り道で足を捻挫した人がいたように覚えているが、大事には至らずに済んだ。

臨時バス16時45分発(40円)。塩山駅に17時20分着、タイミングが良く上り列車は17時50分発。

## 踏 み 跡 < My mountains >

新宿駅着は21時13分。

以上

<ついでの話>

塩山からの帰りの切符がアルバムに貼ってあった。値段を見ると、東京まで 330円だった。

この山旅の費用は合計 770 円。この頃はアルバイトの時給が 50 円から 80 円だった。

(修正・更新:2023年9月)